

不安定なトルコ政局と不安定なリラ相場

◆トルコリラに下落圧力

足元の外国為替市場ではトルコリラに下落圧力がかかっている。ドル/トルコリラ相場は、7月中旬からの約1カ月で15%近く上昇して史上最高値を更新。トルコリラ/円相場も20日の東京市場で41.10円台まで下落して2012年1月以来の安値を付けた。

◆リラ安3つの背景

トルコリラ安の背景は主に、①ドル高、②地政学リスク、③政局不安、の3点にあると考えられる。①のドル高については、米国の利上げ開始時期が近付いているとの見方からドルが上昇中、新興国からの資金流出懸念が高まっており、経常赤字(財政の海外依存度が高い)国のトルコでは特にそうした懸念が強い。②の地政学リスクに関しては、隣国シリア領内にある過激派組織IS(イスラム国)の関連施設に対して空爆を行なうな

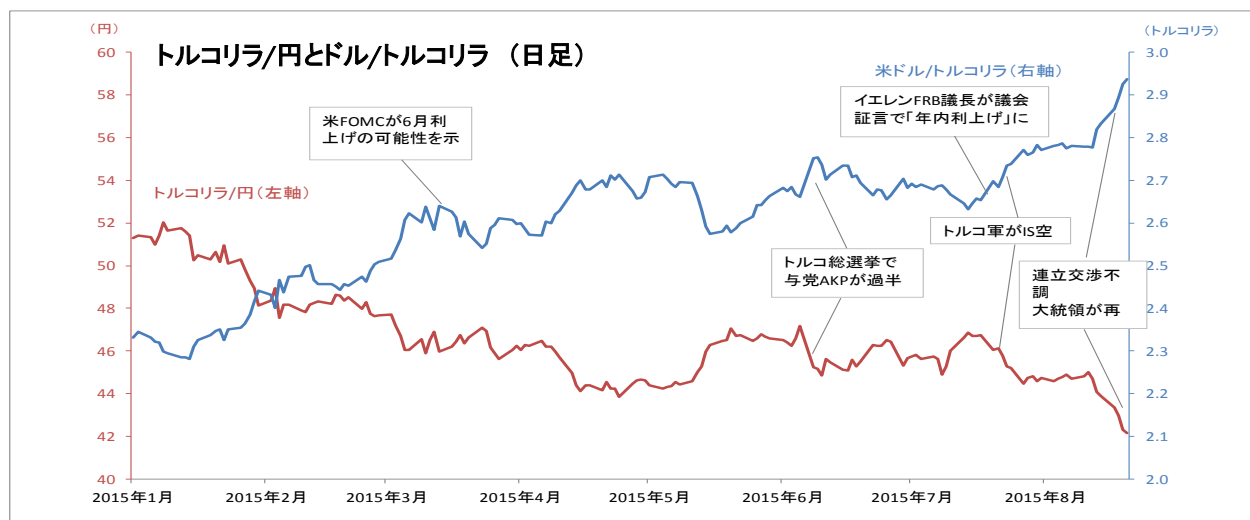
ど、ここに来てトルコ政府が対テロ強硬姿勢に転換した事が、報復行動への懸念を巻き込んで緊張を高めている。③の政局不安は、6月の総選挙で第1党となったものの過半数の議席を獲得できなかった公正発展党(AKP)が、連立相手を見つけられないまま組閣期限の8月23日を迎える公算が大きくなっている。

◆政局が最大の焦点

安定内閣の発足なくしては①及び②への対処もおぼつかないとの観点から、トルコリラ相場にとって目先の最も重要なポイントは③の政局不安を克服できるか否かという事になる。

◆組閣期限

トルコ憲法の規定によれば、連立政権を樹立するに当たっては、大統領が組閣命令を発令してから45日以内に新内閣が発足しない場合、大統



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

領は再選挙を命じる事ができるとされている。その期日が来週23日に到来する。これまで、第1党のAKPは第2党の共和人民党(CHP)や第3党の民族主義者行動党(MHP)と連立交渉を行ってきたがいずれも不調に終わり、18日にはダウトオール首相(AKP党首)が連立組閣を断念したと発表。続く19日には、エルドアン大統領が早期の再選挙実施を表明した。

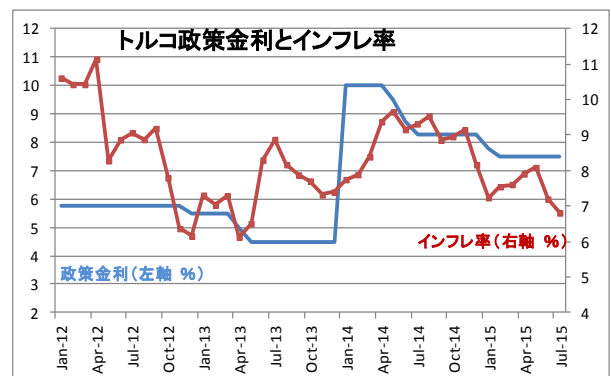
◆細心の注意を

このため、再選挙突入は確定的であり23日の組閣期限はもはや重要な意味を持たないとの見方もあるが、投機筋にとって政局不安は格好の通貨売り材料となるため相場急変に対する警戒を怠るべきではないだろう。トルコの再選挙は規定により解散の90日後に行われる公算が大きく、現議会の解散によって政治空白の長期化が決定的になる(最高裁の判断で短縮される可能性もあるがそれでも45日後となる)。最長3カ月に渡り、寄り合い所帯の「選挙管理内閣」が政権を担う事になる。この間、政情不安に晒されるだけでなく、経済対策やテロ対策などの取り組みが後回しになる可能性が高い事を考えれば、再選挙突入が「織り込み済み」の「材料出尽くし」に繋がるとは思えない。週明け24日のオセアニア市場オープンと同時にトルコリラ相場に下落圧力がかかる可能性を排除すべきではないだろう。たとえば、この週末・週初を無難に乗り切ったとしても、トルコリラのFX取引については当分の間、細心

の注意が必要となりそうだ。

◆金融政策も重要に

政治情勢と絡んでトルコ中銀(TCMB)の金融政策運営もトルコリラ相場にとって重要だ。トルコのインフレ率はこのところ低下基調にあるが、それでも7月消費者物価指数は前年比+6.81%とTCMBのインフレ目標(5.0%)を上回っている。そうした中でもTCMBは、エルドアン大統領の政治的利下げ圧力などもあって政策金利を6会合連続で7.50%に据え置いてきた。ただし足元で、インフレ高進を招きかねないほどのペースでトルコリラ安が進行している事を考えると、比較的早い段階で利上げが必要になる公算が大きい。なお、TCMBは18日の金融政策決定会合で外貨売りオペの拡充などを発表した。リラ安対策としては不十分と受け止められた。インフレ率が明確に上昇を始める前に利上げに動く事ができればリラ安を阻止できるかもしれない。政治的圧力に屈する事なく機動的に動けるか、TCMBの政策運営が注目されよう。 以上



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com